

令和4年度 子ども大学にいざ


1 実施体制

子ども大学にいざ	学長	志村 二三夫（十文字学園女子大学学長）
	副学長	—
子ども大学にいざ実行委員会	実行委員長	星野 敦子（十文字学園女子大学教育人文学部 児童教育学科教授、地域連携推進センター長）
	実行委員 （関係団体）	新座市教育委員会、十文字学園女子大学、新座市 ボランティア団体「雑木の会」

2 事業内容

開催期間	令和4年8月25日			
参加者数等	定員	30名	応募者数	46名
	参加者数	4年 7名	修了者数	4年 7名
		5年 13名		5年 13名
		6年 6名		6年 6名

3 実施内容

1日目	開催日時	8月25日（木） 13:30~16:30	写真  <p>学生たちがことば探偵になり、話し合いをしています。</p>	
	会場	十文字学園女子大学		
	講義名	①「ことば探偵参上～なぞの言葉の正体をつき止めろ！」 ②「作って飛ばそう！竹トンボ」		
生き方学・はてな学・ふるさと学	講師	①十文字学園女子大学 向後 朋美 教授 ②ボランティア団体「雑木の会」		
	2日目	開催日時	○月○日（○） ○○:○○~○○:○○	写真  <p>キャプション</p>
	学	会場		
講義名				
講師				
3日目	開催日時	○月○日（○）	写真	

別紙様式

		〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇	
学	会場		
	講義名		
	講師		
			キャプション

4 日目	開催日時	〇月〇日 (〇) 〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇	写真
学	会場		
	講義名		
	講師		
			キャプション
5 日目	開催日時	〇月〇日 (〇) 〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇	写真
学	会場		
	講義名		
	講師		
			キャプション

4 新型コロナウイルス感染症対策（工夫した点や苦慮した点など）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用、手指消毒励行</li> <li>・昼食の時間を避けた開催</li> <li>・名簿作成</li> <li>・入学式、卒業式は中止</li> <li>・使い捨て名札使用</li> </ul>
--

5 参加者の声

<p>参加した子供の声 (感想)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞などのいちが分かった。</li> <li>・「は」、「が」、「に」、「の」などの前、あとにつくことばを考えた時、えいごでもできることをした。竹トンボをつくって、「上手」とほめられて、うれしかった。</li> <li>・言葉は名詞、動詞、形よう詞に分かれてることを知った。</li> <li>・竹トンボをつくるのはとてもむずかしかったし、むかしの人はどうやってつくっていたのか気になる。わけのわからない言葉でも分類できることが分かった。</li> <li>・①のことば探偵参上は、意見を聞くうちに、自分の考えと他の人の考えのちがうところが分かって楽しくおぼえられました。竹トンボはなかなかできない体験で難しかったです。でもいい経験になりました。楽しかったです。</li> </ul>
<p>保護者の声 (感想)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校とは違う環境で、色々な体験ができるのが、いいと思いました。竹トンボを実際に作って、とても難しかったと、言っていました。</li> <li>・この度は、このような大学での小学生対象講座を開いてくださりありがとうございました。ことば遊びや竹トンボづくり、とても楽しんで帰ってきました。また他の講座などありましたらぜひ参加させて頂きたいです。</li> <li>・竹トンボを飛ばしたのが1番楽しかったようです。講義についても学校では教わらない内容で興味深かったようです。講義もしっかり聞けたようで受講させて良かったなと思いました。毎年、本人が参加したいと希望していて今年3回目の受講だったのですが、今年も受講でき、ありがたく思っています。6年生なので今年が最後かと思いますが良い経験になりました。</li> <li>・もっと講座の種類を増やし、定期的に行って欲しいです。将来の夢や道を見つけるきっかけになればと思います。</li> <li>・長期休暇中、もう少し受講数が増えると助かる。高学年の参加は、もう少しレベルを上げて学習させてもらいたい。</li> </ul>